

生涯教育研修活動報告書

輸血検査研究班

- 1 実施日時：2024年11月8日 19時00分～20時15分
- 2 会場：ソニックシティビル 601 会議室 教科・点数：専門教科ー20点
- 3 主題：臨床工学技士の輸血治療との関わりについて
他職種から学び、輸血療法の理解を深めよう
- 4 講師：原口 博明（埼玉県済生会川口総合病院）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 21名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：宮澤翔子 岩崎篤史 岸健太 廣田渉 佐々木翔太 志村祥太
- 8 研修内容の概要・感想など

今回の研修では「臨床工学技士の輸血療法との関わりについて」をテーマとして研修会を行った。

原口氏の講演は臨床工学技士の業務全般について、特に血液浄化療法に関して、血液透析編と特殊血液浄化（アフェレシス）編に分けてその原理から業務の実際について詳細な説明があった。血液浄化療法とは血液中に病因（関連）物質が存在する病的状態において、その物質や血液成分を除去することで病態の改善を図る治療法の総称である。輸血製剤を投与する患者の中で、腎不全を患い透析を行いながら輸血施行している患者が多く存在する。透析中の輸血手技に関して、ガイドライン等はなく各施設のマニュアルや医師の判断に委ねられて実施しているとのことであったが、カリウムを含む赤血球製剤と血小板製剤の投与において接続部位を変更していることで、輸血効果を上げていることが印象的であった。また持続的血液濾過透析法（CHDF）は主に循環動態の不安定な重症患者の腎補助療法であり、通常の血液透析（HD）の4時間を持続的血液濾過透析法では48時間かけて行うため、透析回路とは異なるルートから輸血を施行するとのことであった。またアフェレシスの血漿交換時には輸血検査において FFP やアルブミン製剤の準備が必要となる。今回の研修会でアフェレシスの種類や処理量についての説明があり、今後血漿交換があった際には原因疾患や血漿交換の方法、処理量についての知識を活かして業務を行っていきたいと感じた。

輸血検査において血液製剤を迅速に準備することは大前提となるが、血液製剤の投与方法を

理解することも非常に重要である。しかし、実際の現場では臨床検査技師が血液製剤の投与に立ち会う機会は少ないと考えられるが、今後のタスクシフト業務も考慮し、他職種との連携を深め、知識を習得することで安全な輸血療法の実現に貢献したいと考える。今後も引き続き日常業務で役立つような研修を行っていききたい。

提出日：2024年11月13日

文責：宮澤翔子